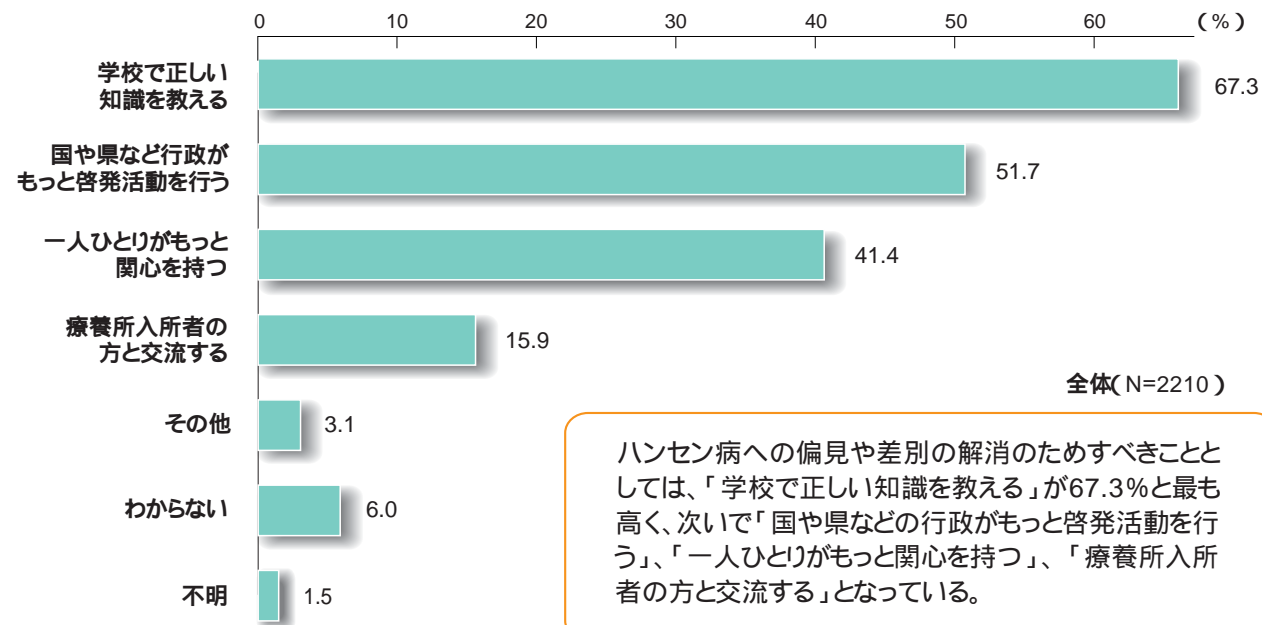


偏見や差別の解消のための対策

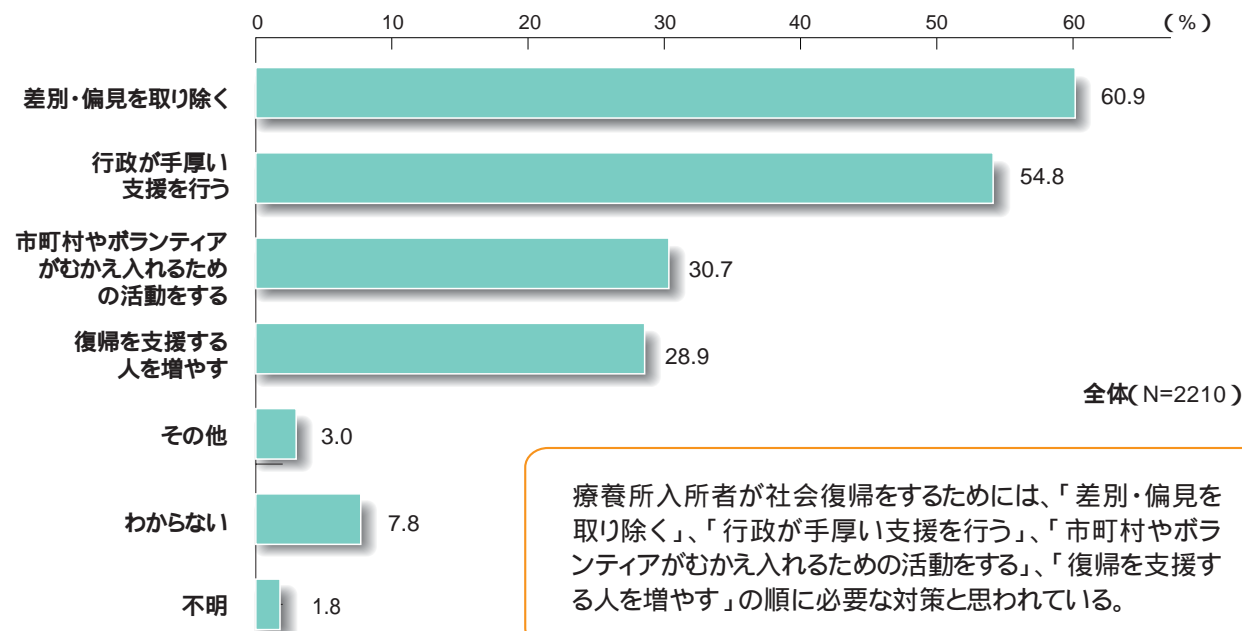
Q.あなたは、ハンセン病への偏見や差別の解消のために何をしたらよいと思いますか。
(はいくつでも)



ハンセン病への偏見や差別の解消のためすべきこととしては、「学校で正しい知識を教える」が67.3%と最も高く、次いで「国や県などの行政がもっと啓発活動を行う」、「一人ひとりがもっと関心を持つ」、「療養所入所者の方と交流する」となっている。

療養所入所者の社会復帰のために必要な対策

Q.あなたは、療養所入所者が社会復帰をするために、どうしたらよいと思いますか。(はいくつでも)



療養所入所者が社会復帰をするためには、「差別・偏見を取り除く」、「行政が手厚い支援を行う」、「市町村やボランティアがむかえ入れるための活動をする」、「復帰を支援する人を増やす」の順に必要な対策と思われる。

岡山県 保健福祉部健康対策課

岡山市内山下 2-4-6 TEL086-226-7331

岡山県のホームページ <http://www.pref.okayama.jp/>

ハンセン病啓発ホームページ「みんなで描くひとつの道」 <http://www.hansen-okayama.jp/>

岡山県民の

ハンセン病に関する意識調査

結果概要版

ひとりから始まる心の架け橋、
みんなで築く明日への架け橋。



岡山県

平成15年4月

調査目的

90年もの長い年月に渡り続けられたハンセン病施策のため、生み出された患者・元患者への偏見や差別意識の実態や県民のハンセン病療養所入所者との交流状況について把握し、岡山県における啓発事業の実施に係る基礎資料を得るとともに、療養所入所者の社会復帰への参考に資することを目的とする。

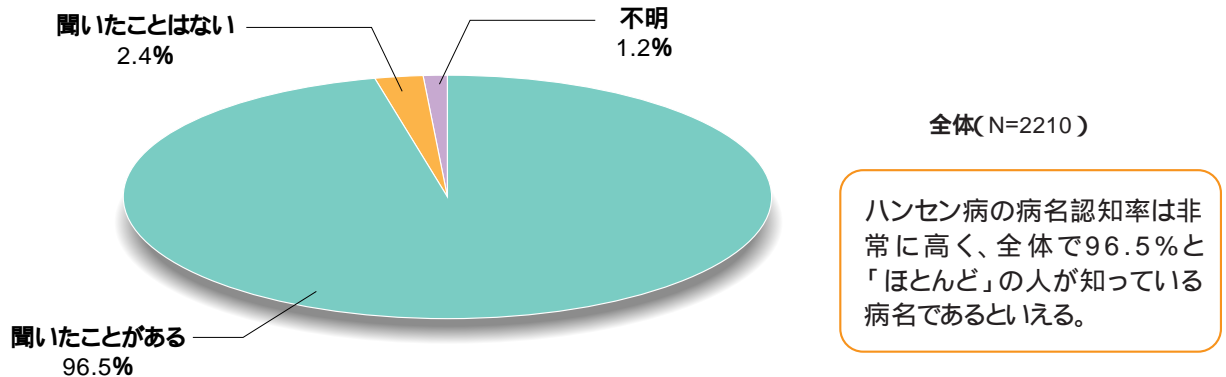
調査概要

調査地域……岡山県全域
 調査対象……15才以上の県内在住者
 標本数……4,000人
 回収数(率)……2,210人(55.3%)
 抽出方法……二段階無作為抽出
 調査方法……郵送配布・郵送回収による
 郵送調査法
 調査期間……平成15年1月～2月

Nは回答者数。
 年齢が未回答のものがあるため、各年代の回答者数の合計は全体の回答者数と一致しない。
 小数点以下第2位を四捨五入しており、比率の合計が100%にならないことがある。

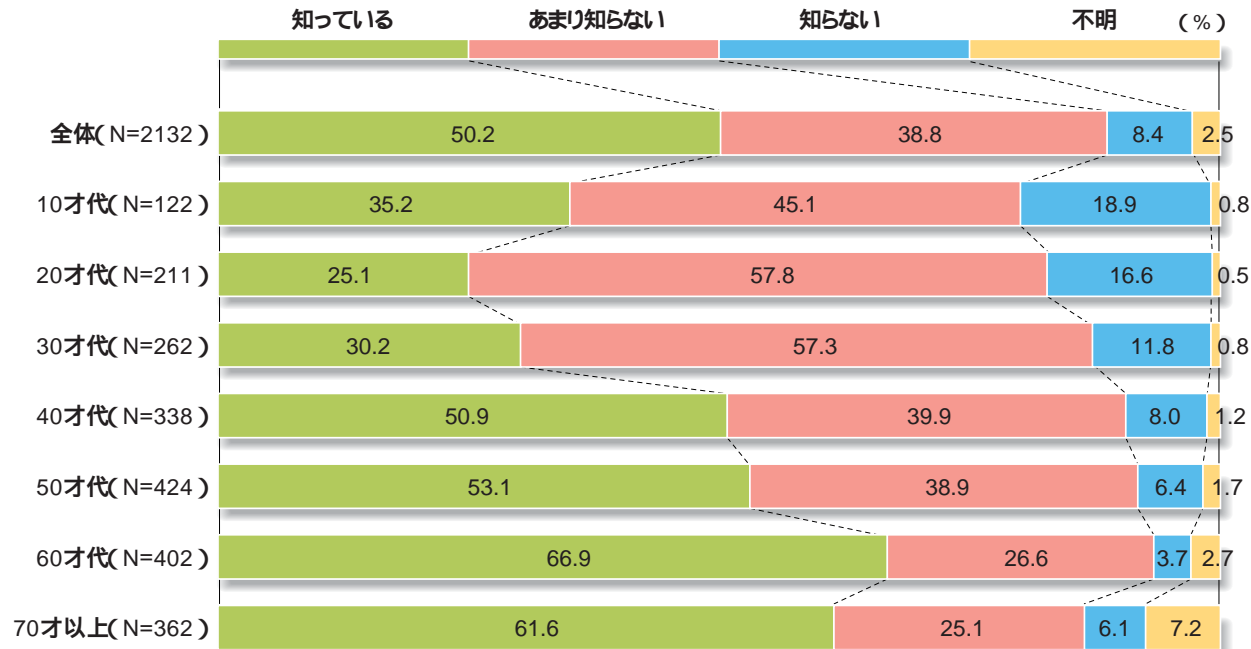
「ハンセン病」病名認知状況

Q.あなたは「ハンセン病(らい)」という病気の名前を聞いたことがありますか。(どちらかに)



「聞いたことがある」と答えた方の「ハンセン病」について知っていると認識している状況

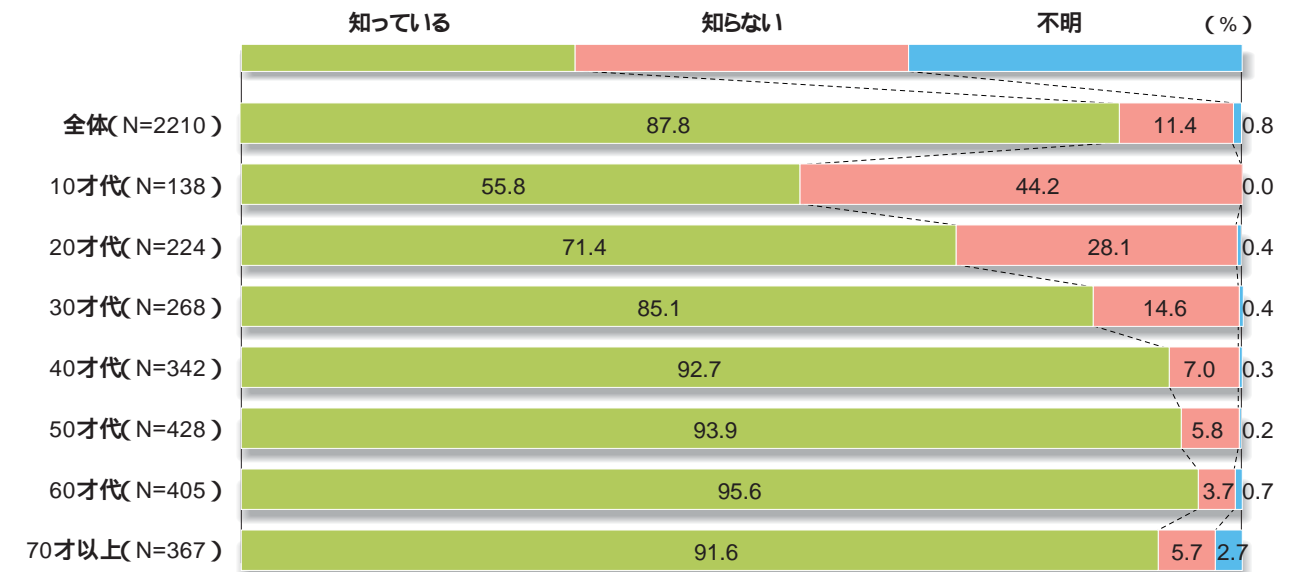
Q.あなたはハンセン病がどのような病気であるか知っていますか。(ひとつだけに)



ハンセン病がどのような病気であるかを知っていると認識している割合は全体で50.2%と約半数となっている。年代別では高年代層ほど「知っている」人が多くなっている。

ハンセン病療養所が岡山県にあることの認知

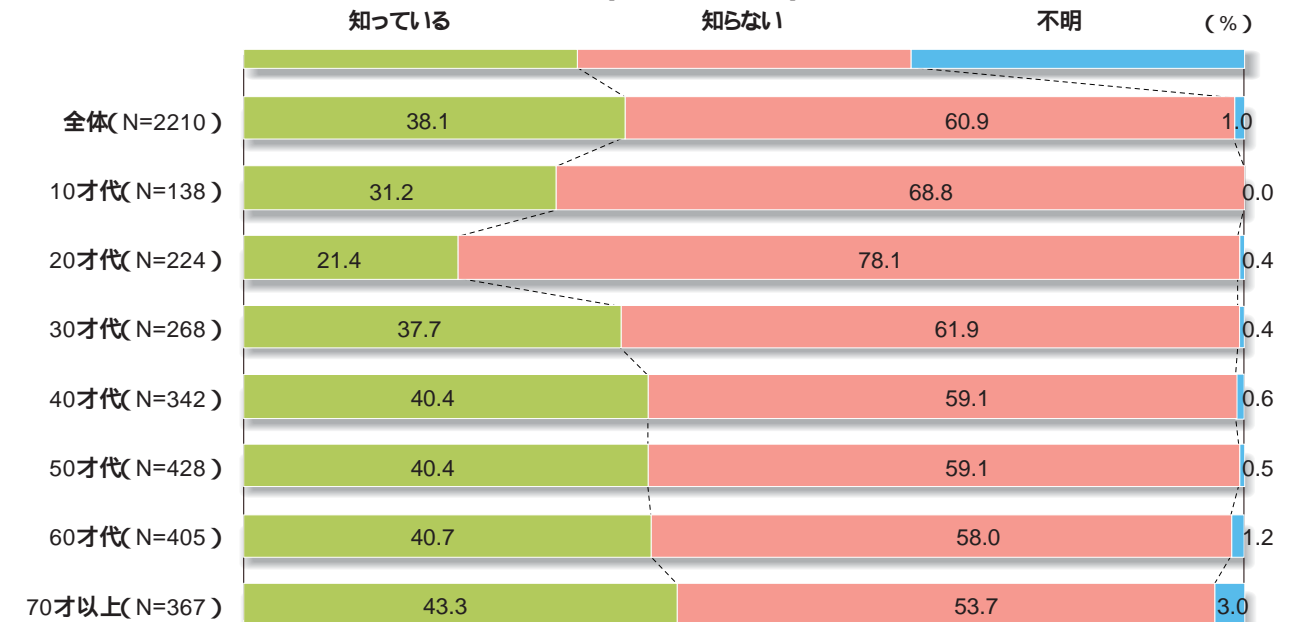
Q.あなたはハンセン病療養所が岡山県にあることを知っていますか。(どちらかに)



ハンセン病療養所が岡山県内にもあることの認知率は全体で87.8%となっている。年代別にみると、10才代(55.8%)、20才代(71.4%)といった若年層での認知率が相対的に低くなっている。逆に40才代以上では9割を超える高い認知率となっており、特に60才代では95.6%と最も高くなっている。

療養所内の結婚に際し、断種が条件とされていたことの認知

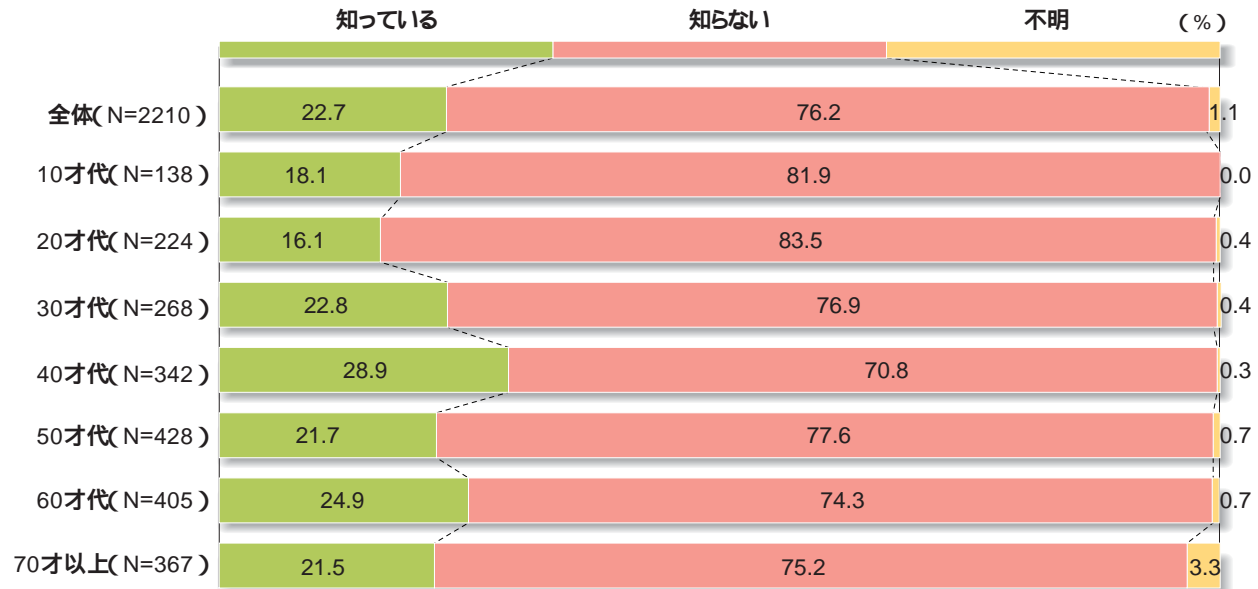
Q.あなたはかつて療養所内では、結婚の時に「断種(=子供を産めなくする手術をすること)」を条件とされていたことを知っていますか。(どちらかに)



かつての療養所内での結婚では、断種が条件とされていたことの認知率は全体で38.1%。年代別では、20才代での認知率が21.4%と最も低くなっている。30才代以上は4割前後と大きな差はみられていない。

療養所内で軽症患者が半強制的に作業をさせられていたことの認知

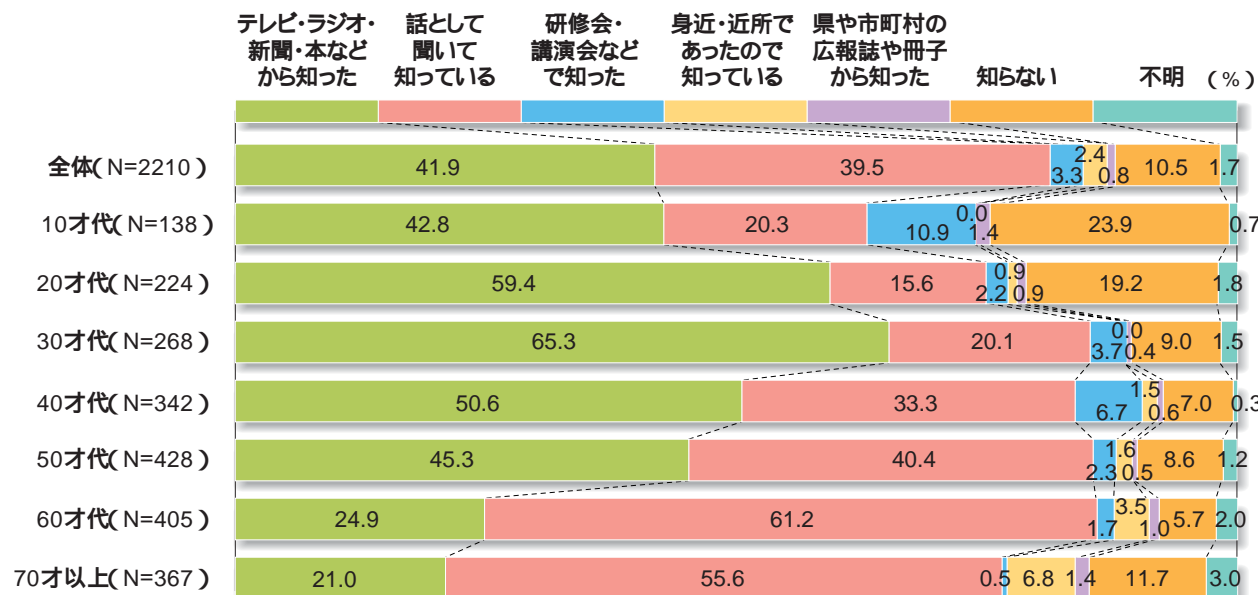
Q. かつて療養所内では、軽い症状の患者が重い症状の患者の看護や施設運営の作業などを半強制的にさせられていたことを、あなたは知っていますか。(どちらかに)



かつての療養所内で軽症患者が半強制的に作業をさせられていたことの認知は、全体で22.7%。年代別では、20才代の認知率が16.1%と最も低く、40才代が28.9%と最も高くなっている。

ハンセン病患者・家族への差別があったことの認知状況と経路

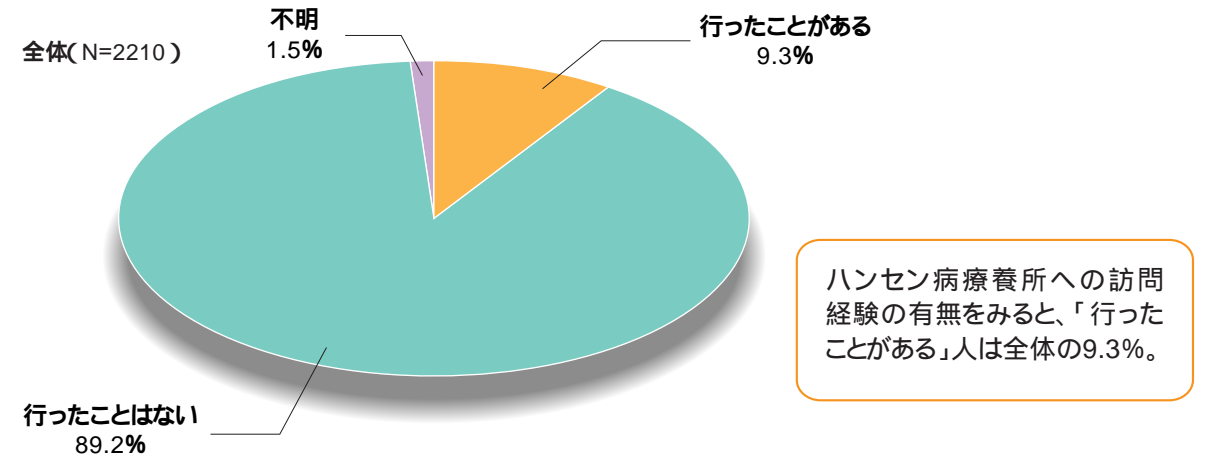
Q. あなたは、かつてハンセン病患者だけでなく、その家族も偏見や差別を受けたことを知っていますか。(ひとつだけに)



かつてハンセン病患者のみならず、その家族も偏見や差別を受けたことを、「テレビ・ラジオ・新聞・本などから知った」(41.9%)が最も多く、次いで「話として聞いて知っている」。「知らない」は10.5%であり、認知率は約9割とみられる。年代別にみると、「テレビ・ラジオ・新聞・本などから」は30才代で65.3%と突出して高く、そこから年齢が高くなるほど、値は低くなっている。一方、「話として聞いて知っている」は20才代から60才代にかけて年齢が高くなるにつれ、値も高くなっている。

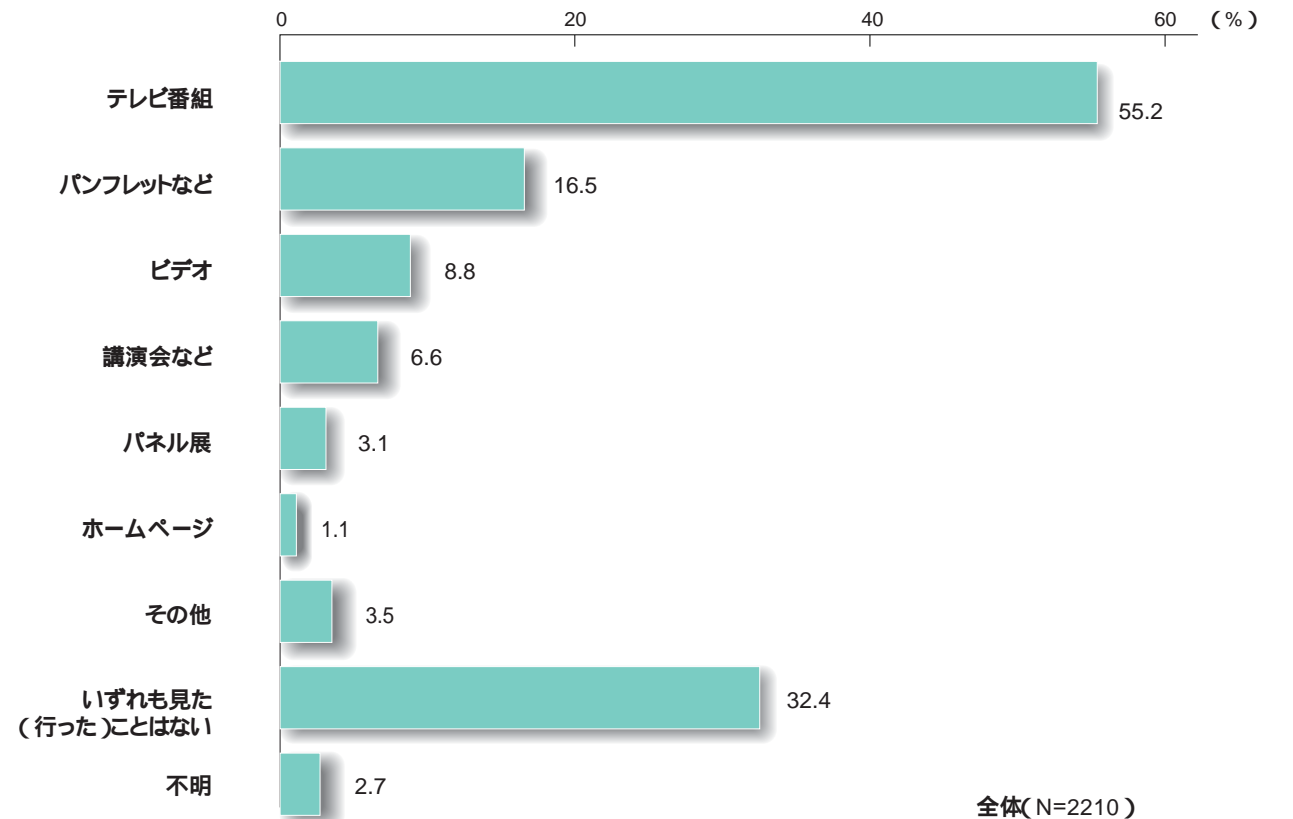
ハンセン病療養所訪問の有無

Q. あなたは、ハンセン病療養所へ行ったことがありますか。(どちらかに)



実際に体験したことのあるハンセン病に関する岡山県の活動

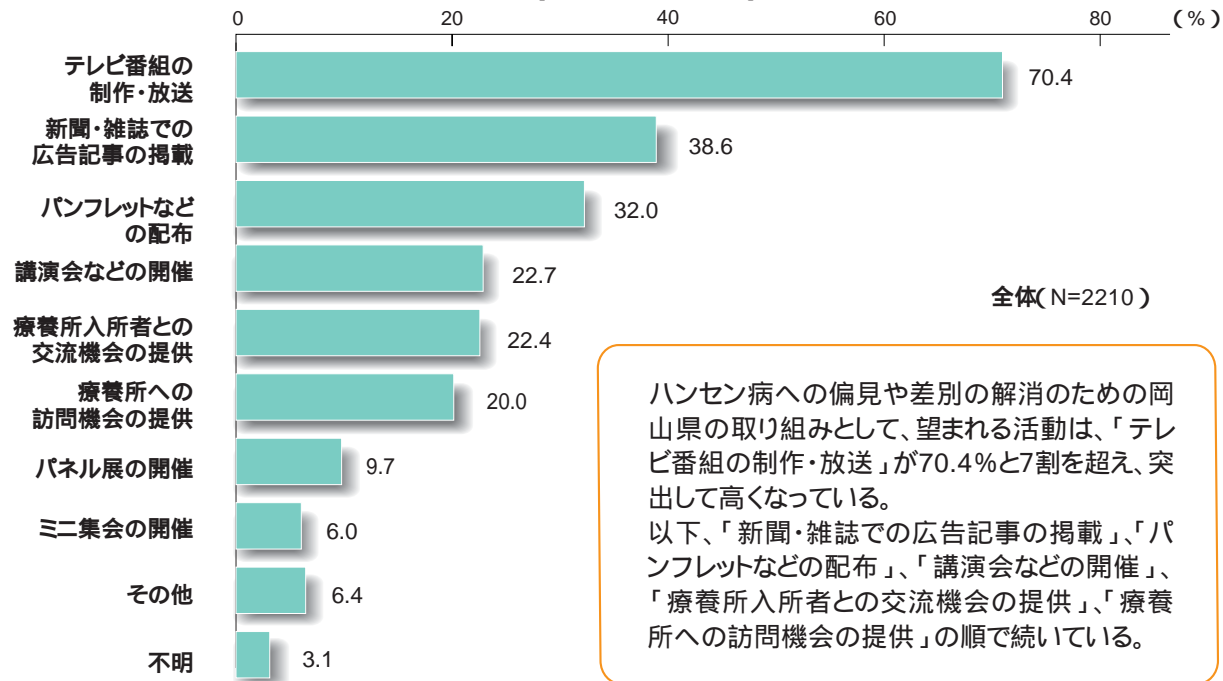
Q. 岡山県は、県民一人ひとりがハンセン病に対する偏見や差別の解消に向けて正しい知識と理解を持ってもらうために、様々な活動を行っています。次の中であなたが実際に見たもの、行ったことがあるものをすべてお知らせください。(はいくつでも)



岡山県が行っている「ハンセン病に対する偏見や差別の解消に向けての各種活動」に対する県民の体験状況をみると、最も高いのが「テレビ番組」(55.2%)であり、以下「パンフレットなど」「ビデオ」「講演会など」「パネル展」「ホームページ」と続いている。県の各種活動のいずれも見たり行ったりしたことのない人は32.4%と全体の約1/3である。

今後望まれる岡山県の取り組み

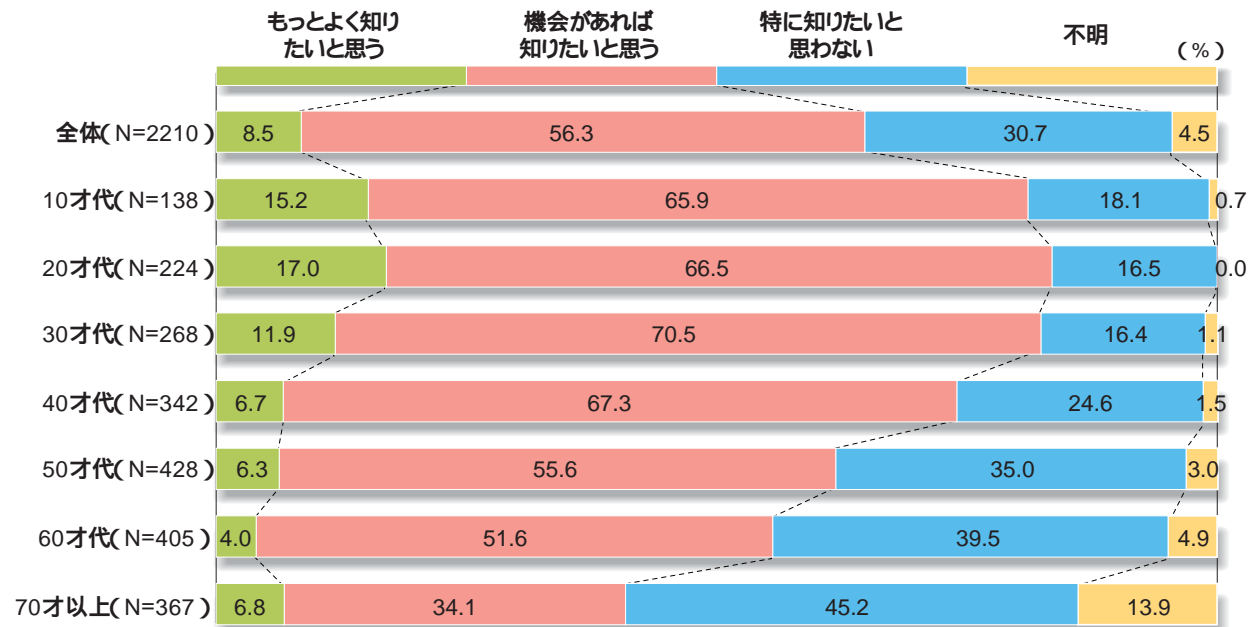
Q.あなたは今後、ハンセン病への偏見や差別の解消のための岡山県の取り組みとして、どのような活動を行うことがよいと思われますか。(はいくつでも)



ハンセン病への偏見や差別の解消のための岡山県の取り組みとして、望まれる活動は、「テレビ番組の制作・放送」が70.4%と7割を超え、突出して高くなっている。以下、「新聞・雑誌での広告記事の掲載」、「パンフレットなどの配布」、「講演会などの開催」、「療養所入所者との交流機会の提供」、「療養所への訪問機会の提供」の順で続いている。

ハンセン病に関する知識・情報への欲求の有無

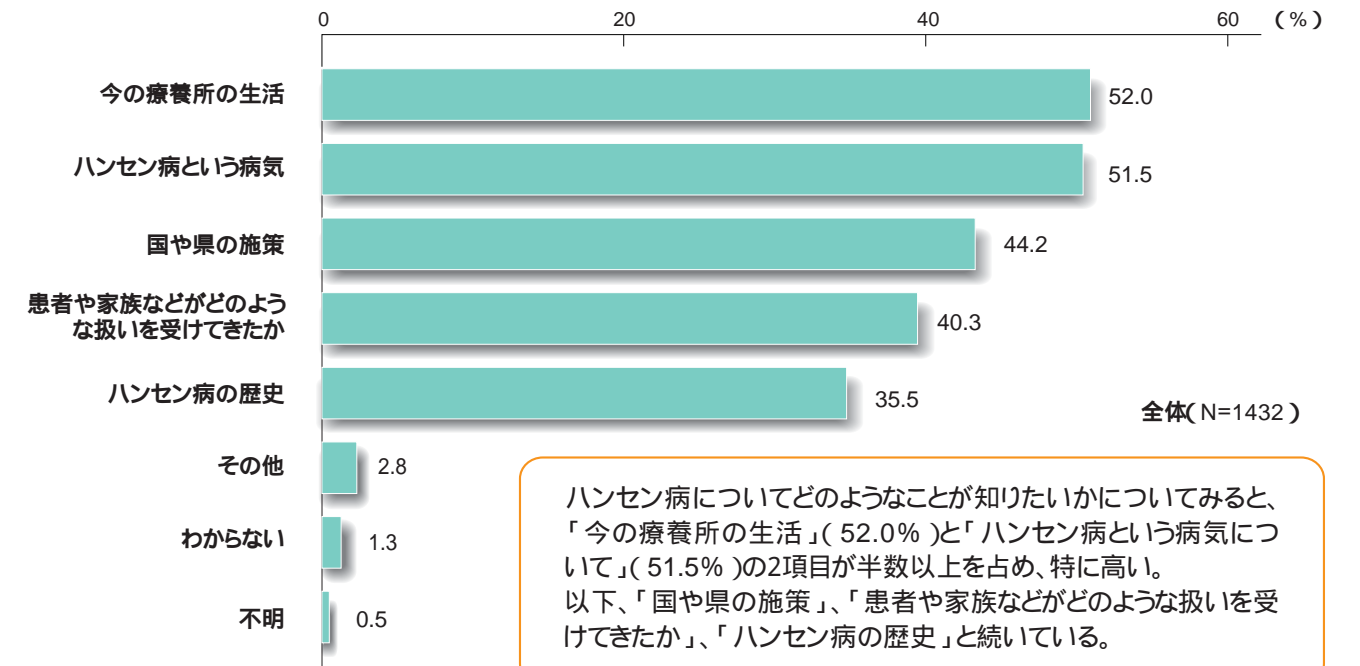
Q.あなたはハンセン病に関することを、知りたいと思いませんか。(ひとつだけに)



ハンセン病に関して、全体では「もっとよく知りたいと思う」が8.5%、「機会があれば知りたいと思う」が56.3%。年代別にみると、高年代層より若年層での情報への欲求度合が高い。「もっとよく知りたいと思う」は、20才代で17.0%と最も高く、10才代と30才代では1割を超える。また、「機会があれば知りたいと思う」は30才代が最も高く70.5%。40才代以下では6割を占める。

「知りたい」と答えた方のハンセン病で知りたい項目

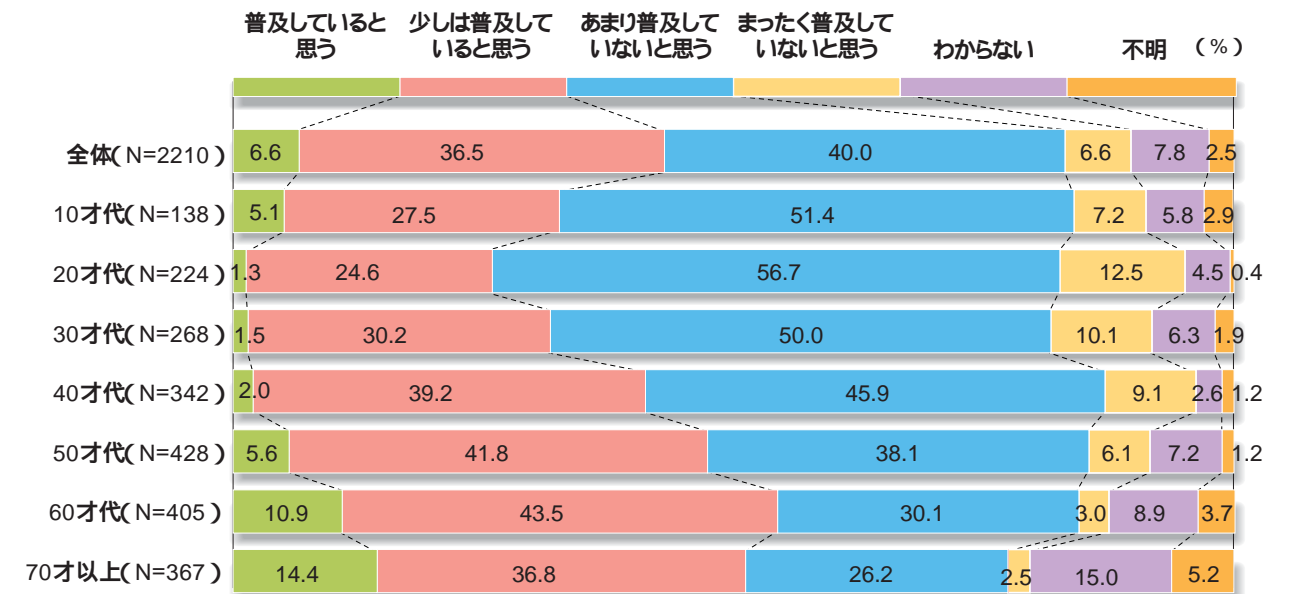
Q.あなたはハンセン病について、どのようなことを知りたいと思いませんか。(はいくつでも)



ハンセン病についてどのようなことが知りたいかについてみると、「今の療養所の生活」(52.0%)と「ハンセン病という病気について」(51.5%)の2項目が半数以上を占め、特に高い。以下、「国や県の施策」、「患者や家族などがどのような扱いを受けてきたか」、「ハンセン病の歴史」と続いている。

ハンセン病に関する情報の普及状況

Q.あなたは、現在ハンセン病に関する正しい知識や情報が普及していると思いませんか。(ひとつだけに)



ハンセン病に関する正しい知識や情報に対する普及状況を、県民がどのように見ているかについて、全体では「普及していると思う」「少しは普及していると思う」の合計が43.1%に対し、「あまり普及していないと思う」「まったく普及していないと思う」の合計は46.6%と後者がやや上回っている。年代別では、普及していると思う割合は20才代から60才代にかけて、高くなっており、逆に普及していないと思う割合は20才代から70才代以上にかけて低くなっている。